

## 御明神演習林開設100周年

— 悠久の時間とは流れて —



記念植樹をする岩手大学長



岡田センター長による記念式典挨拶

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 佐々木一也

今冬の雪の多さは記録的である。ここ雫石町の御明神でも例年を上回る降雪量を記録しそうで、奥山では2mを優に超えているであろう。

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターには、雫石町と滝沢村の2カ所に合わせて約1,300haの演習林がある。前者にある御明神演習林（1,040ha）は、明治38年に盛岡高等農林学校附属演習林として開設されて以来、ちょうど100周年を迎えた。この節目に当たり、平成17年10月5日、御明神演習林において記念行事が行われた。

当日は、岩手大学長、雫石町長のほか、元演習林長など約70名が出席し、悠なる歴史をふりかえり、林学（森林科学）にかかる教育の、研究の拠点として大きな役割を果たしてきた演習林の雄姿に思いを馳せていた。記念式典と併せて行われた記念植樹では、イチヨウ、オオヤマザクラ、ヤマツツジなど123本の苗木が、出席者全員の手で並木状に植えられた。

その昔、南部藩時代に御留山として厳重な山林管制下におかれていたこの一帯は、幕末から明治にかけて無規制な林野利用によって林相が悪化し、また戦後も大規模な伐採が行われた。しかし、100年にわたる森

林管理によって、現在なお自然度の高い天然林が残されており、特に、スギ・ヒノキアスナロ林は岩手県においては他にはあまりみられず、学術的な価値が高いものとなっている。

今般記念植樹された木々が“いまの時代”をふりかえるときを、私たちが見とどけることは容易でないが、それまでに一人でも多くの人びとが行き交ってくれることを、御明神の演習林は願い、私たちは期待したいと思う。

100年の間に、演習林のフィールドに学び、全国に巣立っていった学生は優に2,600名を超えている。本紙前号（No.5）に報告があるように鹿児島大学生が毎年訪れるなど、御明神演習林は永い年月を経ていまなお、幅広い多くの人達との交流を重ねている。

いつの時代も、短いスパンでの世の中の変化は急ピッチで進む。しかしながら、100年の空気が漂う演習林内に歩を進めるとき、その空間は宮澤賢治たちが往来した当時と何ら変らないのではないかと、錯覚にも似た感覚を抱く。100年という悠久の時間とが流れることの重みや尊さ、そして偉大さを改めて思い知らされた。

**エクステンション  
トピックス**

## 御明神演習林開設100周年記念講演会開催される

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 澤口 勇雄

御明神演習林開設100周年記念講演会が、平成18年1月18日(水)、岩手大学情報メディアセンター図書館を会場に、哲学者・立教大学大学院特任教授内山節先生をお迎えして、「森の時間・人の時間」-日本に暮らした人々は森に何をみてきたのか-を講演題目に盛大に行われた。主な内容は、「自然の100年、人の営みの100年」、「1000年の時間を見つめながら暮らした人々」、「自然に還ることに人間の救済をみた人々」、「森と地域との関係をとらえなおす」、「山に行く」というときの「山」とは何だったのか、「森と地域との関係をとらえなおす」などで、時間を軸に森や自然との関わりで生きていく人の営みの意味を問う内容だった。講演の最後で、「この100年、人は時間に踊らされ、時間は進歩発



超満席となった講演会場



講演者の内山 節先生

展とともにあるという気持ちに踊らされた時代であった。しかし自然は100年前と同じような春を迎え、夏を迎えたいという生き方をしている。これからの森の100年、人間の100年を考える場合、この100年間で失ったものを取り返す、見直す、そういう100年を経なければならないと考えている。」と纏められた。地元マスコミを通じてアナウンスをしたこともあって、学生などの大学関係者のみならず、多数の市民の参加もあり会場は超満員で身動きできない状態であったが、100周年記念に相応しい奥の深い講演内容に感動させられた、価値あるイベントとなった。

## 第2回滝沢農場一般公開が行なわれました

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 坂本 甚五郎

地域に開かれた農業実習、教育の場として、地域の方々に気軽に親しめる農場をスローガンに第2回滝沢農場一般公開を11月13日(日)に行ないました。今年の公開の主な内容は農場内のバス見学、農業相談、牛や馬とのふれあい、農業機械試乗体験のほかに、農場で生産された赤米、雑穀ご飯、りんご、豆腐などの試食や販売(米、味噌、ブルーベリージャム、花、野菜、ジャージー牛肉)なども行いました。その中でも農学部の先生方の協力を得て開設した農業相談コーナーにはブルーベリー剪定方法、作物の栽培方法など、中には作物を持ち込んで相談される方もあり、予定の時間内では対応が出来ない程の多くの方々が訪れ担当の先生方が対応に追われました。また、当日あいにくの天候にもかかわらず近隣や盛岡市内から訪

れた市民や家族連れなど1000名近い来場者があり、農場の生産物を味わいながら、実りの秋の1日を楽しんでいただけたかと思います。



学生ボランティアによるりんご販売

## 平成17年度農業改良普及員「プロジェクト研修」

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 星野 次汪



本研修は、普及職員に対し、試験研究機関等で得られた最新の高度先進的な革新的農業技術を習得させるとともに、普及現場における技術的課題解決のための調査研究能力の向上を図るために農林水産省経営局（普及課）が農業・生物系特定産

業技術研究機構等の試験研究機関などに委託して実施している研修で、附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターが主体となって、本学木村伸男先生を講師に昨年に続いて今年も行なった。今年は東北4県及び宮崎県から計8名の参加者を得て、担当地域の集落営農の立ち上げやよりよい推進のために必要な集中研修や現地研修を4回7日にわたって行なった。各自の事例調査を下に具体的に議論し、また、先進地区の視察を行ない、現場で意見交換しながら、地域横断的な共通問題だけでなく、地域特有な問題についても、論議を深めた。このような実践的な研修は同時に普及員相互のネットワーク構築という収穫を得ることも出来た。

研修参加者は本研修の予想外のハードワークに戸惑いながらも、必死になって取り組んできた成果は、多くの方々からご指導・ご批判をいただき、更なる飛躍に結びつけたいとの思いから「研修成果報告書」として取りまとめ、公表した。

## 同窓生への農場産「あきたこまち」販売への試み

寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 星野 次汪

国立大学法人を機に、思い出の大学、思い出の農場の米を同窓生の方々に販売し、併せて収入増加の一石二鳥を企画、実行した。農場の米に「より安全で安心できる」付加価値を付けるために、過去の小規模試験からの「1割減収+経費増+作業効率低下」覚悟で、北日本であまり行なわれていない再生紙マルチ米の栽培を行なった。6月の低温があり初期生育は遅れたが、その後の天候の回復で例年並みで推移し1割減収程度で稲刈りを終えた。同窓生には同窓生会報に紹介記事を掲載して、10kg 4700円で会員からの申し込みを待った。しかし、一行に注文がなく、最終的には11名からの注文に終わった。平成17年秋の新米価格が3000円を切る中での販売であったこと、同窓生にはダイレクトメールにすべきであったことなどを大いに反省し、「二兎を追う者は、一兎をも得ず」を実感させられた試みであった。



販売用の米袋

## 地域への貢献の展開 (平成17年度)

### 職業的専門家対象

森林・林業技術者のためのスキルアッププログラムー青少年のための森林環境教育ー	H17年	5月23日(月)~5月27日(金)
いわて農業者トップスクール	H17年	6月22日(水)~1月25日(水)
水田農業改革に伴う集落型経営の育成方法について	H17年	6月28日(火)~1月13日(金)
2004年度共同研究現地検討会	H17年	7月7日(水)
森林ボランティア養成事業	H17年	7月11日(月)
森林環境教育のワークショップ in 岩手	H17年	7月29日(金)~7月31日(日)
北日本林業経済研究会シンポジウム	H17年	8月30日(火)~8月31日(水)
いわて農業法人ビジネススクール	H17年	11月16日(水)~2月7日(火)
2005年度共同研究現地検討会	H18年	3月14日(火)

### 一般市民・児童生徒対象

イーハトーブ森と家づくりフォーラム(森林編)	H17年	5月8日(金)
第56回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習11」	H17年	5月20日(金)
第57回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習12」	H17年	5月26日(木)
未来を育てる植樹祭「森の講演会」	H17年	6月12日(日)
第58回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習13」	H17年	7月1日(火)
第59回フィールドセミナー「総合的学習時間における森林学習14(宮古市立第一中学校)」	H17年	7月8日(金)
フィールド科学体験教室ーブルーベリーの収穫とジャム加工ー	H17年	8月5日(土)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(製材編)	H17年	8月7日(日)
第60回フィールドセミナー「御明神演習林百周年記念:学びの森に巨樹を訪ねて」	H17年	10月2日(日)
上流・下流連携シンポジウムー都市との交流20年を振り返ってー	H17年	10月15日(土)
森・川・海連携フォーラム in 川井	H17年	10月23日(日)
'05フォーラム 雑穀を通して岩泉町の伝統の技と知恵に学ぶ	H17年	11月27日(日)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(建て方編)	H17年	11月27日(日)
御明神演習林百周年記念講演会	H18年	1月18日(水)
イーハトーブ森と家づくりフォーラム(住宅編)	H18年	2月25日(土)
第61回フィールドセミナー「かんじきをはいて冬の森を歩こう」	H18年	3月5日(日)

### センター開放的事業

滝沢農場一般公開	H17年	11月13日(日)
----------	------	-----------

### 岩手大学農学部における卒業論文・修士論文テーマ公募に関するお知らせ

岩手大学農学部では岩手大学中期計画に基づき、地域社会のニーズの吸い上げと研究結果の地域社会との共有化を目的とし、卒業論文・修士論文のテーマを公募することとなりました。農学部における卒業論文・修士論文の研究のテーマとして取り上げてもらいたい事項の御希望がございましたら、下記までメールまたはFAXにて御連絡ください。折り返し、御連絡し詳細について御相談させていただきます。御応募をお待ちしております。

注) 卒業論文・修士論文のテーマは、学生・院生自身の希望も重視して設定されます。御応募いただいたテーマが、そのままの形で、すぐに研究に移されるかどうかについては確定できない部分もございますことをあらかじめ御了承ください。

【応募先】〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-8 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター事務部  
FAX:019-621-6664 E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp

## 岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8 TEL:019(621)6234

E-mail:fsciu@iwate-u.ac.jp http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~fsciu/